

糖尿病性腎症(DMN)を原疾患とする血液透析(HD)患者における HD 時間とエリスロポイエチン(EPO)投与量についての検討

【目的】 HD 時間と EPO 投与量の関係性の評価

【対象】 DMN を原疾患とする外来 HD 患者 79 例(男 53 例、女 26 例)

【方法】 4 時間 HD 群(A)、6 時間 HD 群(B)での週当たりの EPO 投与量と、これに寄与する因子を調査した

【結果】 79 例の背景は、年齢 66.3 ± 10.5 歳、HD 歴 5.2 ± 4.2 年、Kt/V 1.5 ± 0.2 、ヘモグロビン(Hb) 11.1 ± 1.0 g/dl、フェリチン 174.0 ± 168.1 ng/ml、アルブミン 3.7 ± 0.4 g/dl、CRP 0.4 ± 0.6 mg/dl、P 4.8 ± 1.2 mg/dl、インタクト PTH 126.1 ± 115.3 pg/ml で、2 群間に有意差は認めなかった。

EPO 投与量(U/週)は A 群で 5683.0 ± 3863.3 、B 群で 3111.8 ± 2360.8 と B 群で有意に低値であった($P < 0.05$)。また重回帰分析では、HD 時間が EPO 投与量に対する独立した寄与因子であった($R^2 = 0.243$ 、 $P < 0.05$)

【考察】 不十分な透析は EPO 反応性の低下の原因となるとされている(Nephrol Dial Transplant 19 : ii 1-47, 2004)。2 群間で Kt/V に差は認めなかったが、EPO 投与量が 6 時間 HD 群で有意に減少しており、Kt/V に反映されない中分子量物質等の除去が腎性貧血治療に有効であったと考えられた。